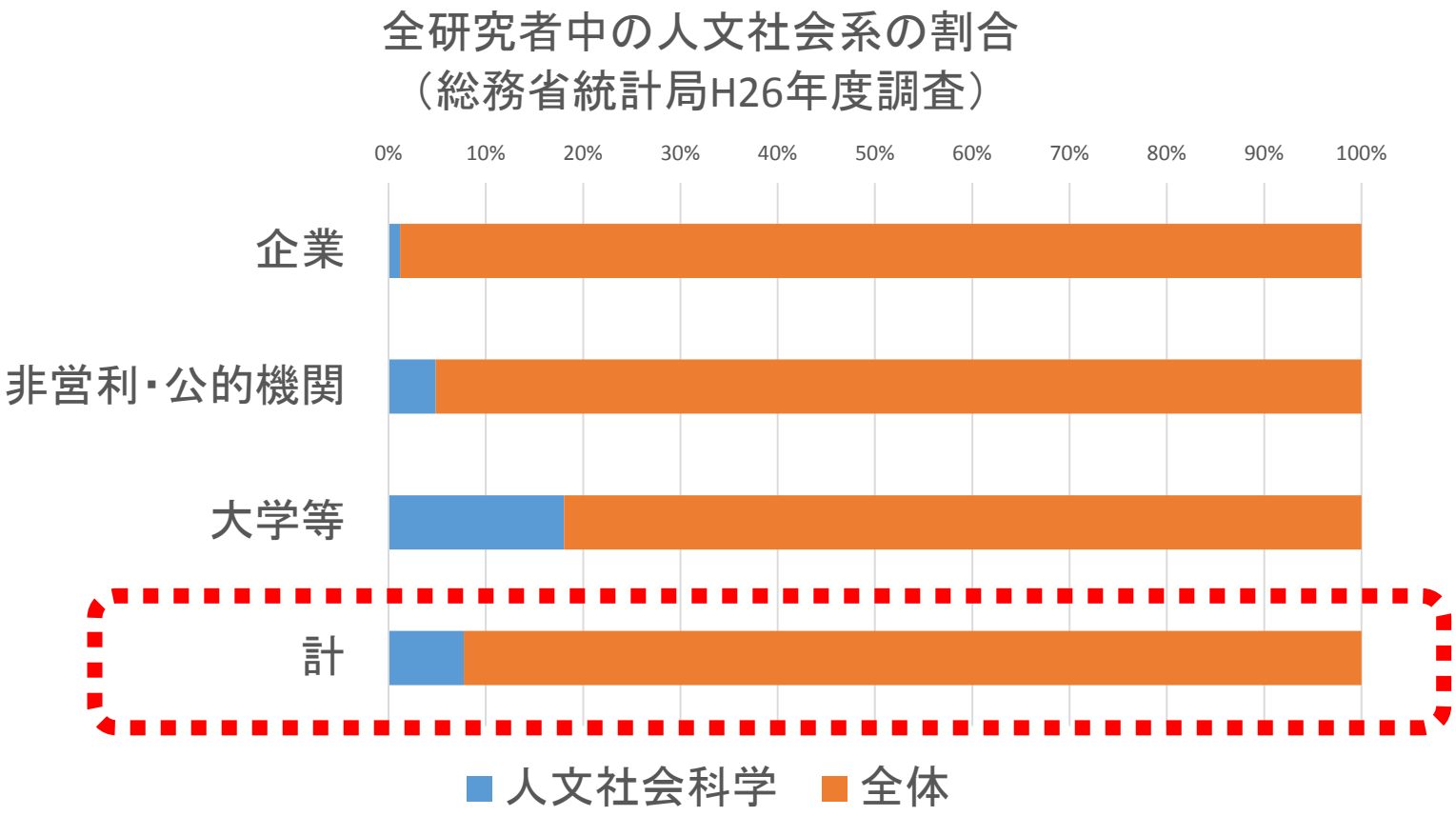
人文系の研究評価はどこを目指すのか？

永崎研宣
一般財団法人人文情報学研究所　主席研究員
東京大学大学院情報学環　特任准教授

本日のポイント

- 人文社会系（人文系）の位置づけ
- 「評価」は誰によってなされるのか
  - 世間一般？
  - 歴史的評価？
  - 研究分野？
  - 大学人事？
  - 国際大学ランキング？
- どこに向かうのか？

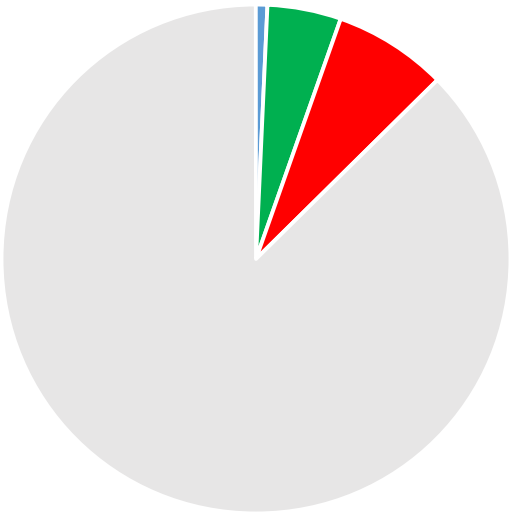
人文社会系研究の規模感（1）



研究本務者数 855,708 人中、71,825 人。

人文社会系研究の規模感（2）

「科研費」1,640億円中の人文社会系の割合



■ 総合人文社会　■ 人文学　■ 社会科学　■ それ以外

平成25年度の科学技術研究費は
18兆1,336億円

人文社会系への期待？

- 「…その上で、このシステム全体でパッケージ化を設定していくことにより、確実に各政策課題を解決するばかりでなく、大きな科学技術イノベーションを生み出すことが可能となる。このようなシステム化を推進する上では、研究開発から実証事業、規制改革までの全体像を 明確化するとともに、人間行動との関わりはますます強くなるため、人文社会科学的な取組も組み込み、ユーザー側の行動を科学的に分析する必要がある。」（科学技術イノベーション総合戦略 2015 ）

第四期科学技術基本計画より(1)
(平成２３年８月１９日閣 議 決 定)

- イノベーションの重要性は第3期基本計画でも掲げられた。しかし、科学技術の成果 を、イノベーションを通じ、新たな価値創造に結びつける取組は、なお途上にある。我が国としては、新たな価値の創造に向けて、我が国や世界が直面する課題を特定した上で、課題達成のために科学技術を戦略的に活用し、その成果の社会への還元を一層促進するとともに、イノベーションの源泉となる科学技術を着実に振興していく必要がある。そのためには、自然科学のみならず、人文科学や社会科学の視点も取り入れ、科学技術７政策に加えて、関連するイノベーション政策も幅広く対象に含めて、その一体的な推進 を図っていくことが不可欠である。このため、第4期基本計画では、これを「科学技術イノベーション3政策」と位置付け、強力に展開する。

第四期科学技術基本計画より(2)
(平成２３年８月１９日閣 議 決 定)

- ⅲ)国民生活の豊かさの向上人々の生活における真の豊かさの実現に向けて、最新の情報通信技術等の科学技術 を活用した教育、福祉、医療・介護、行政、観光など、公共、民間のサービスの改善・ 充実、人々のつながりの充実・深化など、科学技術による生活の質と豊かさの向上に 資する取組を推進する。また、人々の感性や心の豊かさの増進に資するため、人文社会科学と自然科学の融 合の観点も含め、新たな文化の創造や、我が国が誇るデザイン、コンテンツの潜在力 向上につながる研究開発を行うとともに、その国民生活への還元と海外展開に関する 取組を推進する。

第四期科学技術基本計画より（３）（平成２３年８月１９日閣議決定）

- （３）研究情報基盤の整備研究情報基盤は、… 国は、大学や公的研究機関における機関リポジトリの構築を推進し、論文、観測、実験データ等の教育研究成果の電子化による体系的収集、保存やオープンアクセスを 促進する。また、学協会が刊行する論文誌の電子化、国立国会図書館や大学図書館が 保有する人文社会科学も含めた文献、資料の電子化及びオープンアクセスを推進する。

第四期科学技術基本計画より(4)
(平成２３年８月１９日閣議決定)

- 国は、「科学技術イノベーション政策のための科学」を推進し、客観的根拠(エビデンス)に基づく政策の企画立案、その評価及び検証結果の政策への反映を進めるとともに、政策の前提条件を評価し、それを政策の企画立案等に反映するプロセスを確立する。その際、自然科学の研究者はもとより、広く人文社会科学の研究者の参画を得て、これらの取組を通じ、政策形成に携わる人材の養成を進める。

人文系の評価における課題（1）

- 「業界」での評価と「世間」での評価

- 分野全体として／個人として社会に貢献する
  - どのように貢献度を評価するのか？
  - 「無用の用」というレトリックの困難

- 直接的な社会的提言　等の貢献の仕方と評価
  - 研究評価と直結しないが分野の意義を世間に広める

- 即時に評価が定まるとは限らない

人文系の評価における課題（2）

- 「業界」での評価と「世間」での評価
- 研究分野・大学人事・世界大学ランキングのそれぞれにおける評価軸のずれ
  - 研究分野での評価の一部は出版社が担っていた
  - 3者のいずれかでの高評価が他に結びつかないことがある
  - 社会科学系も分野によっては同様の問題がある？
- それらの評価軸は「社会からの要請」に対応しているのか？
  - 必ずしも対応させる必要はないかもしれない？
- 新しい研究動向に対する評価軸は？
  - 学際領域学会の設立？
  - 既存分野での評価ガイドラインの公開？

いくつかの出口？

- 定量的評価をなんとかする
  - 評価を数えられるようにする
    - J-Stageやresearchmapの活用？
  - 世界大学ランキング向けにはもう一工夫必要
    - 引き続き、現行ルールでの一層の奮闘？
    - ルール設定の再検討に向けて？
- 定性的評価をなんとかする
  - 新しい評価軸もきちんと取り込む？
  - 今まで以上にたくさんの「評価に関わる文書」を作成することに？

評価を数えられるようにする

- J-Stage
  - 人文社会系ジャーナル 342誌を登載
  - ⇒引用情報もある程度提供されている
- CiNii Articles - 本文収録刊行物
  - 人文社会系ジャーナル191誌
  - ⇒近々、多くはJ-Stageに移行
  - ⇒⇒ある程度引用情報が提供される可能性も
- ※しかし、人社系での引用情報の研究評価における有用性は？

- researchmap
  - 論文・発表のみならず様々な業績・成果を登載可能
  - ⇒分野にあわせた指標へと発展できる可能性も

世界大学ランキングの一例：

- World University Rankings 2014-2015

人文学
  - Arts and humanities
  - Clinical, pre-clinical and health
  - Engineering and technology
  - Life sciences
  - Physical sciences

社会科学
  - Social sciences

100位以内に日本の大学はない：
アジアからは香港大学、
シンガポール国立大学

87位に東京大学：
50位以内に香港大・シンガポール
国立大・香港科学技術大・北京大

新しい評価軸？

- 例としてのデジタル人文学:
  - 学際領域学会の設立
    - 日本デジタル・ヒューマニティーズ学会(JADH)の設立と国際学協会連合（ADHO）への加盟
    - ADHOの雑誌はAHCI/SSCIに登録。JADHはJ-Stageにて英文誌刊行。
  - 既存分野での評価ガイドラインの公開
    - AHAでの「Guidelines for the Evaluation of Digital Scholarship in History　歴史学におけるデジタル研究を評価するためのガイドライン」の公開
    - MLAでの「Guidelines for Editors of Scholarly Editions　学術編集版の編集者のためのガイドライン」
    - ⇒デジタル人文学における評価の指標に向けて